

2019年12月20日
住友化学(株)代表取締役会長 十倉雅和

第6期基本計画の前提となる将来像の検討について

“Beautiful Harmony in an angry world”

- 第6期基本計画の検討の前提として、世界で地政学リスクが高まり、特に米中の覇権争いによって、イノベーションの冬と呼ばれるような人的交流が停滞する懸念がある中、令和の時代に入った日本はどのような役割を果たすべきかといった国家像を考える必要があります。
- この点、私は、日本は「マルチ・ラテラリズムを重視する」という姿勢を示すべきと考えます。“Beautiful Harmony in an angry world”とでもいうように、地政学リスクの高まりによって不確実で混沌とする世界において、格差が少なく、安定した社会を持つ日本が、令和の時代に入った今、Society5.0やDFFTなどのコンセプトを掲げて、科学技術・イノベーション(STI)の分野で、各国と協調しながら積極的に世界をリードしていくべきです。

重点的に取り組むべき領域

- 既に政府戦略として、AI、バイオ分野の戦略が策定され、量子分野についても検討が進められておりますが、私としては、GHGの削減といった地球環境・エネルギー問題も重点的に取り組んでいただきたいと思います。
- GHGを削減するには化石燃料からの脱却が不可欠です。そうした中でも、日本が安定的に低コストでエネルギーを調達していくには、再生可能エネルギーの中長期のイノベーションに積極的にチャレンジしていく必要があります。
- また、化学業界では、カーボンリサイクル(CCU)に積極的に取り組んでおります。廃棄されるプラスチックの削減やリサイクルなどはもちろん、最終的には、大気中に排出されるCO₂そのものを資源として捉え、これを素材や燃料として再利用していくことを目指しています。

- ただし、CO₂ をメタンなどの化学品に転換するには H₂ が必要です。さらに、CO₂ の排出削減のためには、その H₂ 自身が、再生可能エネルギーによる水の電気分解などによる「CO₂ フリーの H₂」である必要があります。したがって、カーボンリサイクルの取り組みを実現するには、再生可能エネルギーのイノベーションが不可欠です。

サイエンスは楽しいもの

- 企業の立場からすれば、デジタルテクノロジー、バイオテクノロジー、低コストの再生可能エネルギーなどが、産業競争力の強化にとって不可欠なものであることは言うまでもなく、産業が活性化し、強い経済を実現していくことは、国民生活の豊かさにつながります。
- しかしながら、STI の中でも特にサイエンスは、将来、経済的価値を実現するだけでなく、純粹に、人々の心をワクワクさせる、楽しいものだと思います。「末は博士か大臣か」という古い言葉はありますが、最先端の研究が、人々の知的好奇心を大いに刺激し、多くの若者が研究者を目指すような、新しい基本計画では、そういう社会を目指してほしいと考えます。そのためにも、初等中等教育において理数系教育を充実することが重要です。
- 四方を海に囲まれ、地下資源のない日本が、世界で生き残るために、科学技術・イノベーションに注力していかなければなりません。是非、政府には対 GDP 比 1%の科学技術予算を実現していただきたく、また、我々企業も社会の一員として科学技術の発展に貢献していきたいと考えます。

以 上